

2020年の北海道とマサチューセッツ州姉妹提携30周年事業として、北海道庁国際局国際課のマレイナ・マコヘニー国際交流員が文化交流派遣授業を実施しましたので、ご紹介します。

## 北海道・マサチューセッツ州姉妹提携30周年を 北海道の生徒たちとお祝いしました！

1990年2月、北海道は、資源や情報の共有、教育、技術、経済、スポーツなど様々な分野における交流を目的として、マサチューセッツ州と姉妹州提携を結びました。しかし、実は、それよりはるか以前より、両地域の歴史は始まっていました。約150年前、北海道の開拓を始めた時、マサチューセッツ州をはじめとする諸外国から多くの専門家が北海道に招かれ、当時最先端の最新技術を駆使し、北海道の発展に大きく貢献しました。彼らの活躍なくして、今日の北海道はありえなかったのです。

2020年は北海道とマサチューセッツ州の姉妹都市提携の30周年の年でした！残念なことに、新型コロナウイルス感染拡大により、元々計画していた事業は、変更を余儀なくされました。しかし、なんとしても記念事業を実施したいという思いから、私たち職員が一丸となり、コロナ対策を十分に図りながら実現できる事業を検討しました。その一つとして、道内の小・中学校で、米マサチューセッツ州との文化交流派遣授業を実施しました。この授業には、主に二つの目的がありました：

1. 米マサチューセッツ州や姉妹州関係について学ぶ
2. マサチューセッツ州の生徒とのペンパル(レター交流)事業の実施



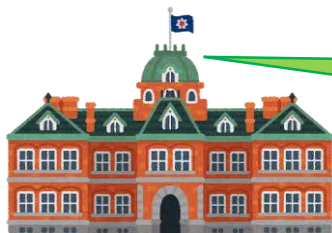
### ペンパル(レター交流)事業とは？

ペンパルとは、特に郵送で定期的に手紙を書いたり、もらったりすることを指します。多くのアメリカの学校で、このようなプログラムが実施されています。特に小学校で盛んに行われていて、学校の先生が、相手となる学級や学校(たいていは海外の学校)を探してくれ、生徒たちに、手紙交換をしてみるよう勧めます。

読者の皆さんの体験とは違うかもしれませんが、私が小学生の頃、クラスの全員がペンパルレター交流事業に参加していました。(記憶力がよくないので)自分の覚えている限り、小学生の時に少なくとも二つのレター交流事業プログラムがあったと思います。一つは、南アフリカの小学校と、もう一つは、私の先生が深い縁を持っていたロシアの小学校とでした。

ペンパルをする際の、最初の手紙の書き出しは、普通とちょっと違います。自分のことを紹介するための手紙なので、最初に、簡単なあいさつから始めます：「こんにちは、あなたのことについて教えてください。私たちの間には、大きな距離があるのに、私とあなたの生活はどこが違うか、そして、どこが似ているのかも知りたいです」。

このレター交流の目的は、普通では決して出会うことのない違う国の生徒やクラスを結ぶことです。そのつながり以上に、実際の手紙のやり取りを通じて、自身以外の文化、生活について知る機会を得ることができます。



ご存知ですか？  
赤れんが庁舎の中央上部にそびえる八角塔のドームは、マサチューセッツ州出身のホーレス・ケプロン氏が設計しました。

私が勤める道庁国際課主催の文化交流派遣授業の募集に道内の8校が応募してくれました。新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら、そのうちの1校は行うことができなくなってしまいました。以下の7校で文化交流派遣授業を実施しました：札幌市山鼻中学校、上士別中学校、中標津中学校、釧路市共栄小学校、新得中学校、網走市東小学校と函館市港中学校



2020年11月下旬、道内のコロナ感染者数が増加したため、4校はオンラインでの授業に切り替えました！直接生徒の皆さんに会えなかったのは残念ですが、テクノロジーによって、私たちの物理的な隙間を埋め、お互いに新しいことを学ぶこともできました。

生徒たちはとても元気で、熱心でした。現地に赴き、実際の授業ができたのが良かったのですが、オンラインで行うことで、健康面での心配をせず、元気に国際交流ができました。



実際の授業やオンラインで参加した生徒たちは、マサチューセッツ州や姉妹提携について学びました。授業では、クイズをしたり、生徒たちが興味のある話題を質問したりしました。そして、もちろん、手紙も書きました。

手紙数百枚を預かり、これから、マサチューセッツ州側の生徒に送ります。彼らが、世界中に友達ができることを願っています！







**北** 海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約300人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤れんが通信では、こうした様々な国々からやって来た皆さんのストーリーを伝えていきます。



## Meet DeVonna!



私の名前はラーゼン・デボナです。アメリカ、テキサス州のダラス出身です。若い頃、日本の文化に興味を持ちはじめ、ユタ大学で日本語とアジア研究を専攻しました。名古屋に短期留学をしたことがあります。着物や茶道など、日本の伝統に関心があります。

現在、国際交流員の4年目で、日高管内の小さな町である様似町に、家族と一緒に暮らしています。

### なぜ北海道(日本)へ来たのですか。

昔からJETプログラムに興味がありましたが、実際の応募は、家族にとって最適なタイミングが来るまで待つ必要がありました。その間、本州を何度か訪れ、私は九州以外の場所に興味を持ちはじめ、主人も日本の暑い夏を心配していたこともあり、北海道内の地方への派遣を希望しました。

### 住んでいる地域の好きなのところはどこですか。

大自然に囲まれているところです。私の住む町は、日高山脈と太平洋に挟まれています。静かな夜には、自分のアパートからでも、海の波音が聞こえます。様々な観光スポットや、ウォーキングやハイキングコースがあるので、いつでも屋外のアクティビティを楽しむことができます。春には、華やかなピンク色の桜や色とりどりの花が咲き、夏には、青々とした山稜、青く輝く海、秋には、黄金色の美しい紅葉、そして、冬には、一面の雪のじゅうたんを見ることができます。

アメリカでは、慌ただしい大都会に長く住んでいましたが、全く違う環境に身を置き、大自然の中で息子を育てられることは、とても素晴らしい経験です。

## 冬の楽しみは何ですか。

そり遊びと野鳥観察です。地元の幼稚園で働いているので、雪がたくさん降った時は、子ども達をそり遊びに連れていきます。私の息子も、そりや雪遊びが大好きです。冬になると、この地域には、オオハクチョウ、オオジロワシ、オオワシ、そして北海道の雪の妖精と言われるシマエナガなど、渡り鳥がやってきます。時々、様似川に、オオハクチョウに餌をあげに行ったり、木の上にワシがいないか探したりしています。

## JETプログラムの国際交流員(CIR)として、楽しいところは何ですか。

CIRの仕事を通じ、様々なことに携わることができます。幼稚園児に英語を教えたり、町民向けに、国際交流イベント、ホリデーパーティーや料理教室などのイベントを企画したりします。また、アポイ岳ユネスコグローバルジオパークでは、翻訳や通訳もしているので、世界各地のジオパーク活動に携わっています。新型コロナウイルス感染拡大前は、イタリアとインドネシアで開催されたジオパークの国際会議にも同行させてもらいました。

